

TOPICS

1

馬教授と山地准教授が 世界で最も影響力のある科学者に選出！



Clarivate Analytics社(旧トムソン・ロイターIP & Science)が発表した論文の引用動向分析、高被引用論文著者(Highly Cited Researchers)2019年版において、本学資源植物科学研究所植物ストレス学グループの馬建鋒教授、山地直樹准教授が選出されました。馬教授は5年連続、山地准教授は4度目の受賞となります。

馬教授、山地准教授は、植物の生育に不可欠な各種ミネラルの輸送メカニズムを数多く解明し、「植物・動物学/ Plant & Animal Science」分野において世界で最も影響力のある科学者として、国際的に高く評価されました。

引用数が顕著に高い論文は、科学コミュニティが意義深く有益であると判断した一つの目安となります。

TOPICS

2

学生二人が日本代表として世界ユースサミット 「次世代リーダー・グローバルサミットOne Young World 2019」に参加

法学部3年の松本颯太さんと医学部1年の喜舎場朝基さんが、英国のロンドン市で10月22～25日に開催された世界ユースサミット「次世代リーダー・グローバルサミットOne Young World(OYW)2019」に日本代表団の一員として参加しました。

松本さんと喜舎場さんは、全体セッションやワークショップ、ネットワーキング(交流会)などに参加。SDGsを枠組みとしながら、気候変動から戦争と平和、教育、人権、リーダーシップ、グローバルビジネスなど、多岐にわたるディスカッションを行いました。さらに喜舎場さんは、全体セッションの一つ「One Young World 宗教間対話」において世界ユース代表の一人として選出され、現職のリーダーらと共に壇上にあがりました。日本人として史上3人目となるステージ選出であり、本学として初の快挙です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8906.html



Pick up!

「おかやまSDGsプラザ」がオープン



11月12日、岡山におけるSDGsの取組を情報発信する「おかやまSDGsプラザ」が岡山コンベンションセンター内にオープンしました。

本プラザは、岡山コンベンションセンターの自主事業として企画され、岡山地域でSDGsに取り組む岡山市、岡山商工会議所、岡山経済同友会に岡山大学も加わって活動母体を形成し、岡山地域でSDGsに取り組む企業や団体にも協賛をいただきながら、SDGsに関する取組展示やイベントなどを行います。本学もSDGsの具体的な取り組みなどをパネル展示しています。

本学は「おかやまSDGsプラザ」を活用しながら、広くSDGsに関する情報発信や情報交流を進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8901.html



TOPICS

3

第2回SDGs Caféを開催

～パプアニューギニアの理科の教科書作成から学ぶ～

本学では国連SDGs「持続可能な開発目標」の達成貢献に向けた取組を推進しています。11月13日には、津島キャンパスのL-Caféでゴール4「質の高い教育をみんなに」をテーマに、「パプアニューギニアの理科の教科書作成から学ぶ」と題して第2回SDGs Caféを開催。学生・教職員約30人が、開発途上国における教育環境改善について語り合いました。

榎野博史学長のあいさつに続き、教育学研究科の喜多雅一教授が、パプアニューギニア国の状況や教育環境を説明。カンボジアで教職に就いていた教育学研究科修士2年生のSieng Thavy(シン タビー)さんは、母国の教育現場の課題について説明したほか、手作りの教育器具などについても話しました。

参加学生らは、「普段耳にすることのない太平洋の島の現状を知ることができ、日本との違いを感じることができた」「今後のSDGs活動計画の参考にした」と感想を述べていました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8900.html



TOPICS

4

「岡山大学ホームカミングデイ2019」を開催

10月26日、「岡山大学ホームカミングデイ2019」を開催しました。当日は天候にも恵まれ、訪れた延べ2000人の来場者が互いに交流を深めました。

今年も応援団総部による力強い演舞で開幕。創立五十周年記念館では、榎野博史学長によるあいさつで歓迎式典を開式し、続けて岡山大学Alumni(全学同窓会)総会を開催。総会第二部ではAlumniからの支援を受けた中井利宣さん(医学部医学科3年生)が「ニューヨークでの研究インターンを終えて」と題して発表しました。岡山大学統合報告フォーラム2019、金光功労賞授賞式およびフォトコンテスト表彰式も開催しました。うらじゃ連「笑輝」による演舞や、「ミュージックフェスティバル」、茶道部お茶席などのおもてなしもありました。記念館周辺では、国立吉備青少年自然の家によるクラフトブース、同窓生・在学生・留学生らによる模擬店のテントが立ち並び、多彩な催しを実施。各学部では講演会やシンポジウムなども行われ、来場者は楽しそうに会場を回っていました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id8880.html

PRESS
RELEASE

潜在性脳梗塞再発予防を目的とした経皮的卵円孔開存閉鎖術 国内のトップを切って岡山大学病院で治療開始！



国内で年間約20万人の人が発症するといわれている脳梗塞には、いろいろな検査を行っても原因の分からないケース(潜在性脳梗塞)があります。潜在性脳梗塞は脳梗塞全体の5～10%を占め、卵円孔(心臓の左右の心房間の隙間)が開いたままになっていることが重要な要因といわれています。潜在性脳梗塞は若い年齢(60歳未満)の方に多いことも知られており、社会的に大きな問題となっています。

従来、脳梗塞の再発予防には血栓の発生を予防する薬が用いられてきましたが、長期間にわたり服用する必要があり、薬が効きすぎること出血性の合併症をきたすこともあります。カテーテルを用いて卵円孔を閉鎖する治療を導入することで、脳梗塞の再発率を約60%減らすことができることが報告され、国内での導入が待たれていました。

岡山大学病院では2010年より自由診療として、国内で唯一この治療を行ってきました。また現在、前兆を伴う片頭痛の治療としても、医師主導治験を実施しています。このような治療基盤をもとに、今回の治療導入となりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id685.html

